○○市立○○小学校　「職場復帰支援プラン」

１　目　的

・ 本プランは、精神疾患による休職中の職員が職場への適応性を高め、職場復帰を達成することを目的とする。

２　支援体制（役割分担）

（１）プラン総括責任者は、校長とし、組織的・計画的な体制づくりを行うとともに職場復帰支援プランを作成する。

（２）プラン総括推進者は、副校長又は教頭とし、職場復帰支援プランの推進について、他の推進者と協議の上、具体的な実践を行う。

（３）プラン推進者は、教務主任、学年主任、衛生管理者（衛生推進者）、保健主事、養護教諭、事務職員等で構成し、職場復帰支援プランの円滑な推進に努める。また、休職者が気軽に相談でき、コーディネーターとしての役割を果たすメイン推進者をあらかじめ決めておくことが望ましい。

（４）校内復帰支援委員会（仮称）を定期的に開催し、支援プラン実践上の問題点等を協議し、プランを評価・修正する。

３　支援プラン実践上の留意点

（１）職場リハビリテーションは、復職のための準備期間であり、職場への適応性を育成するものであること。

（２）休職者を迎え入れる職場全体の温かい雰囲気が欠かせないこと。

（３）問題が発生した際は、休職者と１対１で対応せず、すぐに管理職又はメイン推進者に連絡すること。

（４）支援プランは、本人や家族の意見、主治医の助言等により実践・評価・修正を加えながら、進めていくものであること。

（５）適応能力を高めていくためには、他の教員の授業を参観したり、授業の補助を行ったりするなどの段階的な実践プログラムが不可欠であり、全職員の協力が必要であること。

（６）休職者が責任と自覚を持って取り組めるよう、やらなければならないこと、守らなければならないことは明確に伝えること。

（７）管理職は、休職者とその代替者（臨時的任用講師等）の人間関係づくりに特に留意すること。

（８）復職後も継続的な支援を行うことができる体制を構築し、進めていくものであること。

4　職場復帰支援プラン（教諭の例）

【実施期間】令和〇〇年〇〇月〇〇日～令和〇〇年〇〇月〇〇日（見込）

	実施期間	プランの実施内容	主な担当
第一段階	〇月〇日 1ヶ月程度	①学校生活（職場）に慣れる。 〇出勤は、週２日、午前３時間程度 ・他の職員とのコミュニケーションを図る。 ・担当学年等の授業参観を行う。 ・担当学年の文書等の印刷補助など軽易な事務処理を行う。 ・児童生徒とコミュニケーションを図る。 ・メイン推進者や管理職と面談し、日誌を提出する。	〇校長、副校長、教頭、メイン推進者、プラン推進者 〇主治医
第二段階	〇月〇日 1ヶ月程度	②①に加え、小集団の指導補助を行う。 〇出勤は、週３日、給食時まで ・少人数指導において、マンツーマン指導を行う。 （管理職が観察） ・ティームティーチングの T2 として指導を行う。 （メイン推進者が観察） ・給食時は学級に入って、一緒に食事をする。 ・後半で慣れてきたら、次の段階に向けて徐々に時間を増やしていく。	〇校長、副校長、教頭、メイン推進者、プラン推進者 〇各授業者 〇主治医
第三段階	〇月〇日 1ヶ月程度	③②に加え、適時、単独授業を行う。 〇出勤は、週４日、５時間目まで ・適時、単独で授業を行う （管理職やプラン推進者は適宜指導・助言を行う。） ・後半で慣れてきたら、次の段階に向けて徐々に時間を増やしていく。	〇校長、副校長、教頭、メイン推進者、プラン推進者 〇主治医
最終段階	〇月〇日 1ヶ月程度	単独で授業を行う。 〇出勤はフル勤務 ・単独で授業を行う。 （管理職やプラン推進者は適宜指導・助言を行う。） ・学級担任としての事務処理等を行う。 ・休み時間や放課後等の活動にも参加する。	〇校長、副校長、教頭、メイン推進者、プラン推進者 〇主治医
復職後	〇月〇日	④職場リハビリテーションの終了（復職） ⑤復職後の支援体制について（復職後の業務内容や分掌等） ・管理職やメイン推進者との定期的な面談は、当面継続し、フォローアップに努める。 ・△△副主任として、他の教職員と協力しながら活動する。	〇校長、副校長、教頭、メイン推進者

注１）　学校独自の様式で構わないが、支援体制　（役割分担）や実施期間、実施内容が具体的に示されたものが望ましい。

注２）　上記プラン作成に当たっては、本人、家族、主治医の意見を取り入れることが望ましい。

注３）　上記プランは、４ヶ月を目安に作成したものであるが、期間は適宜変更することが望ましく、本人に復帰までの見通しを持たせることが大切である。

4　職場復帰支援プラン（事務職員の例）

【実施期間】令和〇〇年〇〇月〇〇日～令和〇〇年〇〇月〇〇日（見込）

	実施期間	プランの実施内容	主な担当
第一段階	〇月〇日 1ヶ月程度	①学校生活（職場）に慣れる。 〇出勤は、週２日、午前３時間程度 ・他の職員とのコミュニケーションを図る。 ・担当学年の文書等の印刷補助など軽易な事務処理を行う。 ・メイン推進者や管理職と面談し、日誌を提出する。	〇校長、副校長、教頭、メイン推進者、プラン推進者 〇主治医
第二段階	〇月〇日 1ヶ月程度	②①に加え、事務遂行の補助を行う。 〇出勤は、週３日、給食時まで ・文書・調査・給食会計等の事務作業の実務補助として簡易な作業を始める。 ・後半で慣れてきたら、次の段階に向けて徐々に時間を増やしていく。	〇校長、副校長、教頭、メイン推進者、プラン推進者 〇主治医
第三段階	〇月〇日 1ヶ月程度	③②に加え、事務遂行の補助を行う。 〇出勤は、週４日、５時間目まで ・様子を見ながら、事務・事務補助と連携して、本業務の補助を始める。 ・電話対応・受付対応等の対外的な作業内容を徐々に始める。 ・後半で慣れてきたら、 次の段階に向けて徐々に時間を増やしていく。	〇校長、副校長、教頭、メイン推進者、プラン推進者 〇主治医
最終段階	〇月〇日 1ヶ月程度	主で事務を行う。 〇出勤はフル勤務 ・事務・事務補助と連携して、本業務を行う。 ・電話対応・受付対応等の対外的な作業内容を主で行う。	〇校長、副校長、教頭、メイン推進者、プラン推進者 〇主治医
復職後	〇月〇日	④職場リハビリテーションの終了（復職） ⑤復職後の支援体制について(復職後の業務内容や分掌等) ・管理職やメイン推進者との定期的な面談は、当面継続し、フォローアップに努める。	〇校長、副校長、教頭、メイン推進者

注４）　学校独自の様式で構わないが、支援体制　（役割分担）や実施期間、実施内容が具体的に示されたものが望ましい。

注５）　上記プラン作成に当たっては、本人、家族、主治医の意見を取り入れることが望ましい。

注６）　上記プランは、 ４ヶ月を目安に作成したものであるが、期間は適宜変更することが望ましく、本人に復帰までの見通しを持たせることが大切である。